

神戸コレクションと国内外の歴史的データについて

上井哲也（気象庁気候・海洋気象部），石川高照（神戸海洋気象台）

1 はじめに

わが国において一般船舶や旧海軍から収集され、主に神戸海洋気象台で保管されてきた1890年から1960年の海上気象観測データは、Kobe Collection（神戸コレクション）と呼ばれる。ここでは参考文献などから神戸コレクションを含む国内外の歴史的な海上気象観測データに関する歴史などについて概観する。

2 神戸コレクションの収集の歴史

1888年12月27日の内務省令第11号により一般船舶の海上気象観測が奨励され、1889年1月から毎月の観測表（ログブックと呼ばれる）として中央気象台（現在の気象庁）へ報告することになった。なお、旧海軍データは水路部に収集された。1920年に神戸に海洋気象台が設立され、中央気象台と旧海軍水路部で行っていた観測表の収集業務と収集データが引き継がれた。1921年4月には海洋気象台から「海洋気象観測法」が刊行され、観測の方法が定められた。

1942年、海洋気象台は神戸海洋気象台に改称し、海上気象・海洋業務を行う中央気象台の1地方機関となつた。1951年からは中央気象台（1956年、気象庁に昇格）が収集業務を再開したが、神戸海洋気象台は1889年から1942年の54年間については、報告された元の観測表を保管してきた。

船舶気象観測データは1961年からは世界気象機関（WMO）の海洋気候概要計画（Marine Climatological Summaries Scheme: MCSS）により、統一した方法で収集・蓄積し随时デジタル化することになり、気象庁もこれに貢献している。

この間、1926年からは北太平洋の統計データを海洋気象年報等で発行してきたほか、観測表や観測指針の改訂などを行なながら現在に至っている。

神戸コレクションの収集の歴史についてはKomura and Uwai (1992) および神田 (1962) に詳しい。

3 1960/61年度のデジタル化について

1959年5月7日に米国商務省気象局長が気象庁長官あてに書簡を送り、当時米国が行っていた大洋気候図を完成させるため、神戸コレクション（当時は7トン資料と呼んだ）のパンチ化等を米国が資金援助して日米共同で行うことを提案した。これについて、同年10月2日に気象庁からこれを受諾する旨の返書を出した。その後、1960、1961年の2年度にわたり、各年度ごとに両者で協定書がかわされて作業が行われ、最終的には以下のものができあがった。

- マイクロフィルム：一般船舶：1890～1961年6月

のおよそ680万通（約1万4千隻の船舶）、旧海軍：1903～1944年の数百万通（約3千隻の艦船）。観測表の形で作成。

- パンチカード：一般船舶：1933～1961年6月、およそ220万通（1939～1943年の50万通は米国第1気象隊が1956年6月に別途作成していた）。コード化された値で、年代によって2つのフォーマットに分けて作成。

デジタル化されたデータは統合海洋気象データセット（Comprehensive Ocean-Atmosphere Data Set: COADS）にも収録され世界的に広く利用されている。

この作業の結果、一般船舶の1890年から1932年および旧海軍データについてはマイクロフィルム化のみでデジタル化は行われなかった。近年、気候変動の解明の取り組みの必要から、これらのデジタル化が緊急課題となり、1995年から日本財團の補助事業として一般船舶分のデジタル化が始まった。

1960/61年度に行われた神戸コレクションのデジタル化については神田（1962）に詳しい。

4 外国の歴史的データ

外国の歴史的データのデジタル化については眞鍋（1999）が以下のものを紹介している。

- ①米国のMaury Collection（1796～1900年：約140万通：中国との共同事業）、②米国のMerchant Marine Collection（1912～1946年：約350万通）、③英國気象局所有のMETFORMS（1935～1939年：約46万通）、④ノルウェーの観測表（1867～1890年：60万通のうち20万通、米国との共同事業）、⑤ドイツ気象局（1860～1945年：約1900万通のうち1600万通）のデジタル化が行われている。

その他にも英國、オランダ、ロシアなどにデジタル化されていない莫大な観測データが保管されていることが報告されているが、資金面などから必ずしも順調に進行していない。

参考文献

- Komura,K.and T.Uwai, 1992 : The Collection of historical ships' data in Kobe Marine Observatory. 神戸海洋気象台彙報, 211, 19-29.
- ・神田太郎, 1962 : 海上気象資料のマイクロフィルムおよびパンチカードの作成について(1)・(2). 測候時報, 29, 71～76・109～116.
- ・眞鍋輝子, 1999 : Kobe Collection のデジタル化と歴史的海上気象資料の発掘に関する国際的動向. 月刊海洋, 31.7, 401～407.